



東京都高等学校数学教育研究会
事務局 都立田園調布高等学校
事務局長 吉 田 亘
発行所 都立昭和高等学校内
編集発行人 萩 原 聡
都数研HP <http://tosuiken.jp/>

第 97 回全国算数・数学教育研究(北海道)大会報告

第97回全国算数・数学教育研究(北海道)大会が、北海道札幌市で、平成27年8月6日(木)から8月7日(金)の日程で開催された。

大会の研究主題は「社会に生きる算数・数学教育」であり、文部科学省がアクティブラーニングを提唱する中、児童・生徒が基礎的・基本的な知識・技能を習得し、それを社会につなげ、活かしていくことを目指す授業の提案がなされる機会となった。

○8月6日(木) シンポジウム

「算数・数学科で子どもたちに

身に付けさせたい学び方とは何か」

コーディネーター 金本 良通(埼玉大学)
シンポジスト 中野 博之(弘前大学)
馬場 卓也(広島大学)
細水 保宏(筑波大学附属小学校)
大根田 裕(筑波大学附属中学校)
浜野 雅輝(札幌市立緑丘小学校)

大会初日の午前、開会式のあと、シンポジウムがニトリ文化ホールで行われた。

国では学習指導要領改訂の諮問がなされ、そこでは、「自立した人間として多様な他者と協働しながら創造的に生きていくために必要な資質・能力をどのように捉えるか」「育成すべき資質・能力を確実に育むための学習・指導方法はどうか」「課題の発見と解決に向けて主体的・協働的に学ぶ学習の具体的な在り方についてどのように考えるか」「そうした学びを充実させていくため学習指導要領等において学習・指導方法をどのように教育内容と関連付けて示していくべきか」等が問われていた。このような状況の中で、今回のシンポジウムでは、今までも授業実践において算数・数学科ならではの学び方・考え方を大切にして子どもたちへの指導を行ってきていることを振り返り、改めて算数・数学科で実現し、子どもたちに身に付けさせたい学び方とは何かについて焦点を当て議論が進められた。

○8月6日(木) 部会講演

大会初日の午後は、幼稚園・小学校部会講演がニトリ文化ホール、中学校部会講演が札幌市民ホール、高等学校講演がかでる2・7ホールで行われた。都数研関係者の多くが、高等学校部会、中学校部会の講演に参加した。

・中学校部会講演

演題 「数学的活動と授業改善」

講師 國宗 進(静岡大学)

・高等学校部会講演

演題 「これからの社会と高校数学教育」

講師 長崎栄三(国立教育政策研究所名誉所員)

(元静岡大学教職大学院教授)

○東京都からの分科会発表者とテーマの紹介

都数研関係の多数の先生方が、様々な主題で研究発表を行った。発表者とテーマについては以下の通り。

・高等学校数学のカリキュラムに関する研究

－現状・課題を踏まえた提言－

萩野 大吾(都立山高)

・「定義」と「定義から導かれる公式」の活用

－多面的な角度から問題を見る力を身につけさせる－

田中 啓之(都立山高)

・高校生に興味・関心を抱かせる数学の教材集づくり

－数学的な考え方の分類と比較－

村形 政信(都立西高)

・数学Ⅰ・Aにおける相関関係の指導の現状とその課題

－基調発表を踏まえて－

塩澤 友樹(都立小石川中等教育)

・数学Ⅲの教材研究と授業について

－基調発表を踏まえて－

中村 明(都立小石川中等教育)

・「数学Ⅱ」以前に潜んでいる微分の考えの指導法について

－数学Ⅱ・数学Bの基調発表を踏まえて－

青木 弘(都立両国高・附属中)

・高校生に興味・関心を抱かせる数学の教材集づくり

－代数的作図法における「1」の作り方－

平井 恒(都立王子東高)

・物理教材を活用した数学の学習指導について

加藤 竜吾(都立東村山高)

文責：編集部副部長 加藤 竜吾(都立東村山高)

編集部 坂井田 博史(都立砂川高)